

練馬稲門会



1月21日、毎年参加している練馬稲門会主催の第6回目となる、早稲田大学交響楽団の「NEW Year's Concert 2012」に参加した。実は自らクラシックのコンサートを聞きに行くほどのインテリジェンスは持ち合わせていないのだけど、お客様である国産自動車交通㈱の荻野社長が練馬稲門会の会長で、毎年このコンサートを主催されている。そのような縁で早稲田大学ともクラシックともあまり縁がない私も、毎年この恒例の早稲田オケのコンサートに参加させて頂くことになっている。とはいえ、この早稲田オケの新春コンサートは結構気に入っている！年に一回の唯一のクラシックという世

界を味わえる場だし、それにこの早稲田オケは大学が持つオーケストラとしてはトップのレベルらしい。とりわけ今年のコンサートには非常に感動させられた。と言うのは、今年の演目の中に「和太鼓と管弦楽のための協奏曲」という非常に革新的（と思える）作品があったからである。この曲は早稲田大学交響楽団のOBである、若干29歳の由谷一幾氏によって作曲された3人の和太鼓奏者のための協奏曲である。和太鼓は日本の伝統的な打楽器の音楽として、もちろん人気はとみに盛り上がっている。しかし、由谷氏のこの曲は「管弦楽との協奏曲」である。うまく表現できないが、雅楽から始まる日本的な様々な特徴的な音楽が管弦楽の演奏の中で再現され、生かされ、祇園の舞妓さんや江戸吉原の歌舞音曲を彷彿させ、時には祭り囃子の威勢の良いた鼓を思い起こさせる。日本的な世界が、極めて西洋的な管弦楽を背景に表現されていく。西洋的な物と日本的な物が融合され

清野吉光氏のコラム 第38回

団塊 耕 志 録



「新春の夢」

清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年㈱タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。



て、それそれだけでは表現できない新しい世界が生まれているのではないかと感じられた。もちろん音楽の専門家でも何でもないのに、頓珍漢な思い込みかも知れないが、しかしすごく感動したし、スタンディングオベーションとやらを是非やりたい気持ちだったが、誰も立ち上がらないので恥ずかしくてやらなかった。(ただし2月末から1か月ほどのヨーロッパツアー公演をするそう、3月11日にはベリン公演の生中継がインターネットであるとの事(デ

ジタルコンサートホールで検索)。ベリン公演ではこの「和太鼓と管弦楽のための協奏曲」には絶対に聴衆のスタンディングオベーションがあるに違いないと思う。それを確認するために、このインターネット生中継を絶対に見たいと思う(日本時間19時)。

真のグローバル化とは？

グローバル化が言われて久しい。しかし得てしてグローバル化は、西洋的価値観(昨今ではアメリカ的スタンダード)の全世界への押し付けの別名でもあった。中東でのテロに代表されるように、西洋キリスト教文明とイスラム文明との対立は深くてなかなか解けない。しかし真のグローバル化は異質な文明が溶け合って、何か新しい世界を生み出していく事ではないのだろうか？ どちらかがどちらかを飲み込む(それに対しての抵抗、反発)のではなく、それぞれの個性と良さを生かしたフュージョン(融合)と止揚(しよう)の世界に

飛躍することがグローバル化の理想の姿ではないのだろうか？そしてこの「和太鼓と管弦楽のための協奏曲」は、音楽においてそうした世界と境地を切りひらいた作品の一つではないのだろうかと思う。意味付与のし過ぎかもしれないが、日本の文明は歴史的にこうした融合と止揚が得意なのではないかと思う。神道と仏教の融合、歴史において中国的な制度を受け入れながら、宦官（かんがん）と女性の纏足（てんそく）は排除し、また儒教的教養を武士道として昇華し、明治以降は西洋と東洋の融合、止揚を幾多の失敗を経ながら結果として実現しつつあると思う。

タクシートのグローバル化

タクシートのグローバル化などという話題はあまりタイムリーでないのかも知れないが、しかしもともと西洋文明の産物のひとつでもあるタクシードライバーのテイストでブラッシュアップし、新たなグローバル



スタンダードを打ちたて、世界に敷衍（ふえん）化していくという夢も楽しいのではないかと思う。そして日本のタクシードライバーは十分その潜在力と可能性を持っているのではないかと思う。まづ何よりも日本社会が普遍的に持っている「おもてなしの心」による接客サービスである。もちろん現実のタクシードライバーの方のサービスはまだまだ課題があると思うが、しかし全世界的に見れば、日本人一般が持つマインドを必ず反映しているはずである。問題はそうしたマインドを發揮しやすい教育やサービスメニューや運賃体系や仕組みをどう作り上げるかだと思

う。実際すでに数々の先進的事例があり、それが十分世界標準に成り得ると思われる。さらにタクシードライバーを利用者のニーズを把握し、それに相応しい乗務員とサービスを迅速にかつタイムリーに供給する仕組みについても、日本のタクシードライバーは世界の標準になり得ると思う。従来のタクシードライバーを使ったGPS-AVMSシステムをベースに、スマホや様々なIT車載端末のシステムが開発され、試行されつつある。もちろんこうしたITシステムそのものは欧米そして今や中国、韓国にも存在するであろう。しかし問題はこうしたシステムがどのようなサービスメニュー、サービスマインドのもとに組み立てられるかである。日本のタクシードライバーでは未だ試行の段階とはいえ「生活総合移動産業」「生活支援産業」というコンセプトの基に、従来のタクシードライバーをより高次のサービス産業として発展させようとする挑戦が存在する。もちろん世界のタクシードライバーにもこうしたコンセプトを持

ったタクシードライバーは存在するのかもしれないが、勉強不足故かあまり聞いた事がない。ある意味、供給の質は需要の質によって規定されるので、高齢化し、それ故また高度に成熟した日本の社会が要求する「移動」の多様性と要求水準の高さに相応しいサービスメニューと質がタクシードライバーから生み出されることによつて、逆にこうした需要が大いに顕在化するのではないだろうか。需要が高まれば「生活総合移動産業」も飛躍的に発展し、「課題先進国」たる日本の移動の分野でのひとつの典型を作ることになり、それがまた世界の見本にもなっていく。かくして日本発の新しいタクシードライバーのビジネスモデルが日本から生まれたタクシードライバーで止揚され新しい世界標準「グローバルスタンダード」となつて世界に広がっていく、ついでにそのお手伝いに携わったオリジンも世界に進出！と思つた瞬間、惜しくも新春の初夢がさめた！

（2012年1月23日記）

お客様「ありがとう！」が、毎日の活力です！

助かたー
「お困りですか？」
「はい、充電が尽きました。充電をお願いします。」
「はい、充電機をご用意しています。」
「ありがとうございます。充電機を充電して使わせていただきます。」
「はい、充電機を充電して使わせていただきます。」

タクチャージで

売上
やりがい
コミュニケーション
サービス
イメージ

UP!!

タクシードライバー専用充電OK! TAXCHARGE

● 対応機種

1. docomo-FOMA/SoftBank-3G
2. auCDMA/au-WIN
3. ipad, iPhone-3G/4G, iPod (第五世代、classic)、iPodtouch、nano
4. その他microUSBを使用するゲーム機、デジタルカメラ、携帯型小型PC等

(販売元)
株式会社システムオリジン
03-3834-8352

「売上UP」の秘密は、
「ドライバーさんの『やりがいUP!』」
「タクチャージ」は、タクシードライバー専用の携帯電話充電器とお客様へのサービス製品です。ドライバーさんとお客様の気持ちよいコミュニケーションツールとして役立ちます。お客様に感謝される事で、ドライバーさんのやりがい度もアップ。
「タクチャージ」で毎日のイメージアップするとともに、売上アップにもご利用ください。